

成 21 年 42.9%、平成 22 年 4.3%、平成 23 年 50.3%と増加傾向を示している。財政状況が厳しい中、保健所における HIV 検査相談の利便性向上の取組みが都道府県等でなされていることは好ましいといえる。しかし、それが検査件数及び陽性件数の増加と必ずしも結びついていないことについて検討を加える必要がある。また、より効率的な検査相談体制の構築のため、保健所等と NGO 等がいかにして連携していくかを検討することも重要であると考えらる。

本年は HIV 検査結果の誤通知の発生が 3 件報告された。現在、84%とそのほとんどの保健所が HIV とともに他の性感染症検査も行っている。受検者にとっての利便性が高くなっている一方、検査相談の業務がより複雑化するため、誤通知のリスクも高まっている。誤通知の発生は、当事者への影響とともに、HIV 検査相談事業全体への信頼に大きな影響を及ぼす。その再発防止に向けて、本研究班としてもマニュアルの改訂等も含め、検査相談体制の充実にさらに努めていく必要がある。

南新宿検査・相談室における日本人女性の感染率は極めて低かった。エイズ動向委員会での統計でも日本人男性と日本人女性の感染率の比は 15:1 である。したがって、日本人女性における感染増加の早期把握は検査数の限られる保険所検査等では非効率であり、献血、妊婦検診での検査が有効と考えられる。

民間クリニックは有料にも関わらず多くの受検者が即日検査を受けており、医療機関であることの安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、検査希望者にとって検査を受けやすい機関の一つとなっている。STI クリニックは他の性感染症に罹患している人も多く来院し、実際、陽性が判明する率も高いことから、HIV の早期発見・早期ケアに繋げるために即日検査の導入は非常に効果的であると思われる。今後もさらに STI クリニックとの連携を強化し、即日検査の導入を積極的に行っ

ていきたい。

ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の日別トップページアクセス数の変動をみたところ、昨年度とは異なり、2 月、5 月、9 月のエイズ動向委員会の発表があった直後にアクセス数が一時的に増加した。その日の主要新聞を調べると、年間あるいは四半期の新規エイズ患者数が過去最高であったことが報じられていた。国民が反応しやすいマスメディアの報道内容を知る上で興味ある知見である。

郵送検査による検査件数は年々増加し、平成 23 年は保健所等での検査件数の 50%に達した。前述のごとく、過去 4 年間で保健所等での検査件数は 26%減少したが、郵送検査は逆に 30%増加している。検査申込をインターネットによって行うことができ、非常に秘匿性が高いことが需要が高まっている要因と考えられる。一方、郵送を用いた検査の特性上、受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面で行えないため、十分な情報や相談を提供することが困難である。今後特にスクリーニング検査陽性時において、受検者をフォローアップし、医療機関等に繋がるよう、各郵送検査会社の協力を得て研究班としての対応を検討していきたい。

献血者の HIV 検査に関しては、初回献血者の 10 万人当たりの陽性率は徐々に増加しており、献血者全体の陽性率が 1.617 であるのに対して 8.06 であり、おおよそ 5 倍になっている。このことは、献血者の中には一定の割合で検査目的での献血が存在しているか、国民一般の HIV 感染率が徐々に高まっているかのいずれかであると推察される。

日本人の感染自認率は他の先進諸国と比べてかなり低いと推定されている。我が国の HIV 流行を終息に向かわせるためには、この感染自認率を高めることが最も重要な課題であると考えられる。そのためには、HIV 検査における陽性判明者数を飛躍的に増大させる必要がある。今後、陽性判明者数の増加が期

待できる検査分野として次の三つが考えられる。(1) コミュニティーと連携し、リスクの高い人々の保健所等・STD クリニックでの受検行動を促進する。(2) 郵送検査の実施マニュアルを整備し、その利用者数を拡大する。

(3) HIV 抗体検査の算定条件の緩和に伴い、病院・診療所における検査機会の提供を拡大する。このような方策の実現とその評価方法を策定するため、HIV 検査相談体制の充実に関する学術的・社会的研究を継続することが重要であると考えられる。

#### D. 結論

HIV 検査相談体制の充実と活用を図るため、保健所等、STD クリニック、歯科クリニック、郵送検査など様々な分野における検査相談の現状と課題を明らかにし、その対策を実施あるいは提言するとともに、検査相談研修会の開催、検査技術の評価、開発、研修などを行った。近い将来、我が国の HIV 流行を終息に向かわせることを目標とし、HIV 感染者の命と健康を守るため、早期発見・早期治療と感染拡大の抑制につながる HIV 検査相談体制を構築することが重要であると考えられる。

#### E. 研究発表

##### 論文発表

1. Li, Y., Takebe, Y., Yang, J., Wei Zhang, W., Yang, R. High prevalence of HIV-1 subtype B' among heterosexuals in western Hubei, Central China: Bridging the epidemic into general population. *AIDS Res. Hum. Retrovirus*. [Epub ahead of print]
2. Nakamura Y, Arai A, Takebe Y, Masuda M. A chemical compound for controlled expression of nmt1-driven gene in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*. *Anal Biochem*. 412(2), 159-64, 2011
3. Urano E, Kuramochi N, Ichikawa R, Murayama SY, Miyauchi K, Tomoda H, Takebe Y, Nermut M, Komano J, Morikawa Y. Novel postentry inhibitor of human immunodeficiency virus type 1 replication screened by yeast membrane-associated two-hybrid system. *Antimicrob Agents Chemother*. 55(9), 4251-60, 2011
4. Raghvani, J., Thomas, X. V., Koekkoek, S. M., Schinkel, J., Molenkamp, R., van de Laar, T., Takebe, Y., Tanaka, Y., Mizokami, M., Rambaut, A. and Pybus, O. G. The origin and evolution of the unique HCV circulating recombinant form 2k/1b. *J. Virol.* (in press).
5. Tee, K.K. and Takebe, Y. Phylodynamic inference of infectious diseases caused by the human immunodeficiency virus, enterovirus 71 and 2009 Swine-origin human influenza virus. *Future Virol.* revision for publication.
6. Li, Z., He, X., Li, F., Yang, Y., Wang, Q., Xing, H., Takebe, Y., Shao, Y. Tracing the origin and history of HIV-1 subtype B' epidemic in China by near full-length genome analyses. *AIDS*. revision for publication.
7. Hirano A, Ikemura K, Takahashi M, Shibata M, Amioka K, Nomura T, Yokomaku Y, Sugiura W. Lack of Correlation Between UGT1A1\*6, \*28 Genotypes, and Plasma Raltegravir Concentrations in Japanese HIV Type 1-Infected Patients. *AIDS Res Hum Retroviruses*. [Epub ahead of print]
8. Yotsumoto M, Shinozawa K, Yamamoto Y, Sugiura W, Miura T, Fukutake K. Mutations to the probe of Cobas TaqMan

- HIV-1 ver. 1.0 assay causing undetectable viral load in a patient with acute HIV-1 infection. *J Infect Chemother.* [Epub ahead of print]
9. Yoshida I, Sugiura W, Shibata J, Ren F, Yang Z, Tanaka H. Change of positive selection pressure on HIV-1 envelope gene inferred by early and recent samples. *PLoS One.* 6(4), e18630, 2011
  10. Ibe S, Sugiura W. Clinical significance of HIV reverse transcriptase inhibitor-resistant mutations. *Future Microbiol.* 6(3), 295-315, 2011
  11. Junko Shibata, Wataru Sugiura, Hirotaka Odee, Yasumasa Iwatani, Hironori Sato, Hsinyi Tsang, Masakazu Matsuda Naoki Hasegawa, Fengrong Ren and Hiroshi Tanaka. Within-host co-evolution of Gag P453L and protease D30 N/N88D demonstrates virological advantage in a highly protease inhibitor-exposed HIV-1 case, *Antivir. Res.* 90(1), 33-41, 2011
  12. Fujisaki S, Yokomaku Y, Shiino T, Koibuchi T, Hattori J, Ibe S, Iwatani Y, Iwamoto A, Shirasaka T, Hamaguchi M, Sugiura W. Outbreak of hepatitis B virus genotype A and transmission of genetic drug resistance in cases coinfecting with HIV-1 in Japan. *J Clin Microbiol.* 49(3), 1017-24, 2011
  13. 加藤真吾. HIV 検査および HIV 関連検査, 化学療法の領域, 27(3), 71- 77, 2011
  14. 加藤真吾, 今井光信. HIV 検査の新たな展開, 日本エイズ学会誌, 13(3), 132-136, 2011
  15. 近藤真規子, 佐野貴子, 今井光信, 加藤真吾, 日本における HIV 検査体制, 病原微生物検出情報, 32(10), 287-288, 2011
  16. 神田浩路, 新井明日奈, 大林由英, 紺野圭太, 加藤真吾, 玉城英彦. わが国の HIV 検査相談に関する一考察 PITCH の導入について, 日本エイズ学会誌, 13(2), 99-104, 2011
  17. 森泉萌香, 玉城英彦. コンドームの歴史をたどる(第1報)「鉄兜」から「ミチコ・ロンドン・コシノ」まで, 北海道医学雑誌, 86(2), 117-119, 2011
  18. 永嶋良之, 新井明日奈, 神田浩路, 大林由英, 玉城英彦. 性感染症の知識と HIV 検査態度に関する一考察—中学高校大学生における調査から—, 日本エイズ学会誌, (印刷中)
  19. 前田憲昭. HIV 感染症/AIDS と口腔病変, HIV 感染症と AIDS の治療, Vol. 2 No. 1, 78-80, 2011
  20. 中瀬克己, 中谷友樹, 堀成美, 神谷信行, 灘岡陽子, 尾本由美子, 高橋裕明, 山内昭則, 福田美和, 松村義晴, 大熊和行, 川畑拓也, 白井千香, 兒玉とも江, 山岸拓也, 中島一敏, 大西真. 性感染症サーベイランス結果の地方自治体による活用の評価と支援, 日本性感染症学会誌, 22(1), 49-55, 2011
  21. 長島真美, 新開敬行, 尾形和恵, 吉田 勲, 原田幸子, 林 志直, 貞升健志, 甲斐明美. 東京都健康安全研究センターにおける HIV 検査成績 (2005-2010 年), 東京都健康安全研究センター年報, 62, 65-69, 2011
- 学会発表
1. 加藤真吾, 須藤弘二. マルコフモデルを用いた日本人 HIV 感染者数の推定. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  2. 佐野貴子, 近藤真規子, 須藤弘二, 根岸昌功, 山中晃, 井戸田一朗, 今井光信, 加藤真吾. HIV 迅速検査試薬の検討およ

- び即日検査への応用. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
3. 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中晃、岩室紳也、相楽裕子、立川夏夫、今井光信、加藤真吾. 2010 年新規感染者から検出された CRF\_01AE/B リコンビナント HIV-1. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  4. 服部純子、椎野禎一郎、瀧永博之、林田庸総、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、長島真美、貞升健志、古賀一朗、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井毅、岩本愛吉、西澤雅子、岡慎一、伊部史朗、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡辺大、白阪琢磨、小島洋子、森治代、中桐逸博、藤井輝久、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦互. 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性頻度の動向. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  5. 木内英、細川真一、五味淵秀人、田村久美、濱田洋平、橋本亜希、水島大輔、西島健、青木孝弘、渡辺恒二、本田元人、田沼順子、矢崎博久、塚田訓久、本田美和子、瀧永博之、照屋勝治、菊池嘉、岡慎一、加藤真吾. 新生児における AZT-TP 細胞内濃度. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  6. 田村久美、渡辺恒二、木内英、福田友彦、折戸征也、栢谷法生、野村耕太郎、細川真一、松下竹次、植田知幸、親泊あいみ、加藤真吾、瀧永博之、菊池嘉、岡慎一. 妊娠 35 週に HIV スクリーニング陽性が判明したが、血中 HIV-RNA が検出されないために、診断と予防内服適応の判断に苦慮した 1 例. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  7. 矢永由里子、高田知恵子、岳中美江、小泉京子、辻麻理子、加藤朋子、江崎直樹、井村弘子、紅林洋子、加藤真吾. HIV 検査相談の研修ガイドライン策定と実践、今後の方向性について：相談対応の標準化を目指して. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  8. 須藤弘二、吉野宗弘、桑原健、白阪琢磨、加藤真吾. LC-MS/MS を用いた毛髪中および血液中の抗 HIV 剤の定量. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  9. 村山正晃、池野良、児玉泰光、田邊嘉也、川口玲、山崎さやか、加藤真吾、高木律夫. HIV-1 陽性者の唾液中に存在するウイルス RNA の完全性に関する研究. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  10. 南宮湖、長谷川直樹、小林芳夫、加藤真吾、小谷宙、戸蒔祐子、別役智子、岩田敏、根岸昌功. 当院において HIV 患者に合併した悪性腫瘍の臨床的検討. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  11. 柳瀬未季、吉田直子、坪井宏仁、木村和子、加藤真吾. 未承認 HIV 自己検査キット使用者における他検査の受検状況調査. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2011 年 11 月.
  12. 村山正晃、池野良、児玉泰光、田邊嘉也、川口玲、山崎さやか、加藤真吾、高木律夫. HIV 陽性者の唾液中に存在するウイルス RNA の完全性に関する研究. 第 25 回日本エイズ学会、東京、2011 年 11 月.
  13. 矢永由里子：HIV 陽性者のメンタルヘルスへのアプローチ その 3 ～～メンタルヘルス問題の「今」を考える：どの

- ように捉え、どうアプローチすることが可能だろうか～困難事例を中心に～第25回日本エイズ学会・総会、東京都、2011年12月
14. 矢永由里子、高田知恵子、岳中美江、小泉京子、辻麻理子、加藤朋子、江崎直樹、井村弘子、紅林洋子、加藤真吾 「HIV検査相談の研修ガイドライン策定と実践、今後の方向性について：相談対応の標準化を目指して」 第25回日本エイズ学会・総会、東京都、2011年12月
  15. 高田知恵子、浅利朋子、高橋義博 三浦一樹、北原栄 HIV カウンセリング体制強化に向けての実践の検討 I (秋田県における HIV カウンセリング制度—第3報 1—) 第25回日本エイズ学会・総会、東京都、2011年12月
  16. 辻麻理子、大城市子、吉元なるよ、井村弘子、渡久山朝裕、今村葉子、飯田昌子、浅井いづみ、徳田由香、柳田哲弘、大嶋美登子、江崎百美子、緒方积、青山のぞみ、才津文子、堀川悦夫、松島淳、長浦由紀、村上ゆき、阪木淳子、山本政弘 「九州ブロックにおけるカウンセリング体制整備の実践」 第25回日本エイズ学会・総会、東京都、2011年11月
  17. 井戸田一朗. クリニックにおける HIV/STIs 検査と診療について. 日本製感染症学会第24回学術大会. (平成23年12月3日-12月4日、東京)
  18. 井戸田一朗. クリニックで HIV 感染症を診るといふこと. 治療 93(11):2277-9, 2011
  19. 井戸田一朗. 民間クリニックの HIV 診療への取り組み. 医薬の門 6(51):66-9, 2011
  20. Takebe, Y. Molecular Epidemiology of HIV in Asia (Update): Lessons and Perspectives for the Study in Malaysia. (Invited lecture). Center of Excellence for Research in AIDS, University Malaya Medical Center (CERiA, UMMC) (Kuala Lumpur, Malaysia, August 19, 2011).
  21. Takebe, Y. Design and Development of Antiviral Compounds: Anti-viral Drug Discovery for HIV and HCV. (Invited lecture). Center of Excellence for Research in AIDS, University Malaya Medical Center (CERiA, UMMC) (Kuala Lumpur, Malaysia, August 26, 2011).
  22. Takebe, Y. Reconstructing the epidemic history of HIV-1 subtype B' that is responsible for explosive blood-borne epidemics in Asia: Its public health implications and the relevance for future vaccine strategies. (Poster presentation). 第12回熊本エイズセミナー・グローバル COE 合同国際シンポジウム (12th KUMAMOTO AIDS Seminar- GCOE Joint International Symposium) (October 19-21, 2011, Kumamoto).
  23. 武部 豊. 分子疫学的視点からみたアジアにおけるエイズ流行の最新動向の分析: 中国における特定リスク集団から一般集団への急速なウイルス播種. 第25回日本エイズ学会 (Nov. 30, 2011, 東京).
  24. Takebe, Y. Reconstituting the epidemic history of HIV-1 expansion in Asia: Understanding the genesis of Asia's AIDS epidemic. (Invited speech). 2nd Annual World Congress of HIV World AIDS Day, China (Dec 2, 2011, Beijing, China).
  25. Kanda K, Nagano K, Fuse C, Jayasinghe A, Silva KT, Arai A, Obayashi Y, Tamashiro H. Assessment of HIV/AIDS-related stigma and discrimination by using a standardized

- quantitative scale in Sri Lanka. 10th ICAAP (26-30 August, 2011, Busan, Korea)
26. Nagano K, Kanda K, Fuse C, Jayasinghe A, Silva KT, Arai A, Obayashi Y, Tamashiro H. An attempt to develop a scale to measure HIV/AIDS-related stigma in Sri Lanka. 10th ICAAP (26-30 August 2011, Busan, Korea)
  27. 永嶋良之、大林由英、神田浩路、新井明日奈、芦村寿生、沼田栗実、三島利紀、玉城英彦. HIV/AIDS に対する偏見差別と HIV 検査への態度～高等専門学校生を対象として～. 第 70 回日本公衆衛生学会. (平成 23 年年 10 月 19 日-21 日、秋田市)
  28. 神田浩路、永嶋良之、吉村有未、吉田 恵、新井明日奈、大林由英、玉城英彦：大学生の HIV 検査に対する意識と受検に関する関連要因. 第 25 回日本エイズ学会. (平成 23 年年 10 月 30 日-11 月 2 日、東京)
  29. 神田浩路、永野勝稔、布施千恵、Jayasinghe A, Silva KT, 新井明日奈、大林由英、玉城英彦. スリランカの一般住民を対象とした HIV 検査に関する実態調査. 第 25 回日本エイズ学会 (平成 23 年 10 月 30 日-11 月 2 日、東京)
  30. 布施千恵、永野勝稔、永嶋良之、藤原 悠、神田浩路、新井明日奈、大林由英、玉城英彦. A 町一般住民におけるエイズに関する意識調査—我が国におけるエイズ偏見・差別尺度開発の試み. 第 25 回日本エイズ学会 (平成 23 年 10 月 30 日-11 月 2 日、東京)
  31. 玉城英彦、新井明日奈、沼田栗実、芦村寿生、布施千恵、三島利紀、神田浩路、大林由英. 若者における他者との交流関係および性感染症の知識・態度. 第 76 回日本民族衛生学会総会 (平成 23 年 11 月 23 日-24 日、福岡市)
  32. 中瀬克己、検査と告知、第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、(平成 23 年 11 月 30 日—12 月 2 日、東京) 日本エイズ学会誌 vol 13. No4, 2011
  33. 中瀬克己、今井光信、佐野貴子、保健所等公設検査機関におけるパートナー健診と説明の現状、第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会、(平成 23 年 11 月 30 日—12 月 2 日、東京) 日本エイズ学会誌 vol 13. No4, 2011
  34. 長島真美、新開敬行、尾形和恵、吉田 勲、原田幸子、清水美穂、林 志直、貞升健志、甲斐明美：東京都内公的検査機関での HIV 検査陽性例における Integrase 遺伝子の解析、第 25 回日本エイズ学会学術集会、2011 (東京)
  35. 長島真美、新開敬行、尾形和恵、吉田 勲、原田幸子、清水美穂、林 志直、貞升健志、甲斐明美：東京都内公的検査機関における HIV 検査件数の解析 (2009-2011 年)、第 25 回日本エイズ学会学術集会、2011 (東京)
  36. 川畑拓也. 2011 年 HIV/AIDS の発生動向と戦略研究後の関西地域のエイズ対策. 関西 HIV 臨床カンファレンス第 47 回講演会、堺、2012 年 1 月
  37. 中瀬克己、堀成美、尾本由美子、高橋裕明、川畑拓也、山岸拓也、中谷友樹、神谷信行、灘岡陽子、白井千香. 感染症サーベイランスによる性感染症アウトブレイク対応. 日本性感染症学会第 24 回学術大会、東京、2011 年 12 月
  38. 前田富士子、阿尾浩子、井野上章、廣田智美、藤田孝子、葆積照江、政岡史昇、安福和彦、吉永治代、本多智恵、皆川英孝、川畑拓也、桜井健司、石神 互. HIV 迅速検査試薬 (エスプライン HIV-Ag/Ab、抗 HIV 抗体と HIV-1 p24 抗原の同時検出試薬) の即日検査での使用に関する検討. 第 25 回日本エイズ学会学術集会シンポ

- ジウム、東京、2011年12月
39. 森 治代、小島洋子、川畑拓也. 長期治療成功例の残存プロウイルスに検出される薬剤耐性変異の動態. 第25回日本エイズ学会学術集会、東京、2011年12月
  40. 小島洋子、川畑拓也、森 治代、谷口 恭、井戸田一朗. HIV 陽性者における HBV ジェノタイプ Ae/G リコンビナント. 第25回日本エイズ学会学術集会、東京、2011年12月
  41. 川畑拓也. 大阪のエイズ ー発生動向と予防対策研究の現況についてー. 第34回大阪 STI 研究会、大阪、2011年7月
  42. 川畑拓也. これからの HIV 検査体制. 第5回京滋 HIV カンファレンス講演会、京都、2011年6月
  43. 小島洋子、川畑拓也、森 治代. 大阪府内および近隣地域の HIV 陽性者における HBV・梅毒の感染歴と HBV ジェノタイプの解析. 第25回近畿エイズ研究会学術集会、京都、2011年6月
  44. Miyazaki N, Fujii T, Iwamoto A, Matsushita S, Sugiura W. Potential of recent antiretroviral treatments in controlling treatment-naive and drug-resistant HIV cases in Japan. International Workshop on HIV& Hepatitis Virus Drug Resistance and Curative Strategies. (Mexico) 2011.6
  45. Sugiura W. Effects of HIV integrase polymorphisms on raltegravir-resistance susceptibility. 6th IAS Conference on HIV Pathogenesis Treatment and Prevention. (ROME, ITALY) 2011.7
  46. Hattori J, Shao W, Shigemi U, Hosaka M, Okazaki R, Yokomaku Y, Iwatani Y, Maldarelli F, Sugiura W. Molecular epidemiology of transmitted drug-resistant HIV among newly diagnosed individuals in Japan. 6th International Workshop on HIV Transmission Principles of Intervention (ROME, ITALY) 2011.7
  47. Hattori J, Shigemi U, Hosaka M, Okazaki R, Sugiura W. Characteristics of Drug-Resistant HIV-1 Transmission: Analysis of Drug Resistance in Recently and Not-Recently Infected Treatment-Naive Patients in Japan. XV International Congress of Virology (札幌) 2011.9
  48. Ibe S, Masaoka T, Yokomaku Y, Iwatani Y, Sugiura W. Identification of novel drug-resistance mutations selected during abacavir+lamivudine+lopinavir/r therapy in HIV-2 CRF01\_AB infection. XV International Congress of Virology (札幌) 2011.9
  49. Matsuoka K, Masaoka T, Tanabe F, Morishita R, Sawasaki T, Iwatani Y, Sugiura W. Development of in vitro enzymatic method for assessing susceptibility to HIV-1 reverse transcriptase inhibitors using a wheat-germ cell-free translation system. Protein Island Matsuyama International Symposium 2011 (愛媛・松山) 2011.9
  50. Ibe S, Yokomaku Y, Maejima M, Iwatani Y, Sugiura W. Drug-resistance profiles of HIV-2 CRF01\_AB-infected case during abacavir + lamivudine+lopinavir/r therapy. 6th German-Japanese HIV Symposium (Bochum, Germany) 2011, 10
  51. Suzuki K, Ode H, Fujino M, Kimura Y, Masaoka T, Hattori J, Yokomaku Y, Iwatani Y, Suzuki A, Watanabe N, Sugiura W. Enzymatic and Structural

- Analyses of DRV-resistant HIV-1 Protease. The 12th SADR (Hershey, Pennsylvania, USA) 2011. 11
52. 伊部史朗、横幕能行、服部純子、杉浦互  
抗レトロウイルス治療中の HIV-2CRF01\_AB 感染症例に認めた薬剤耐性変異. 第 85 回日本感染症学会総会 (東京) 2011 年 4 月
  53. 今村淳治、横幕能行、服部純子、岩谷靖雅、杉浦互 新規 HIV/AIDS 診断症例におけるトロピズムに関する検討. 第 85 回日本感染症学会総会 (東京) 2011 年 4 月
  54. 平野淳、池村健治、横幕能行、杉浦互 ラルテグラビル投与に伴う副作用発現並びに遺伝子多型と血中濃度に関する検討. 第 85 回日本感染症学会総会 (東京) 2011 年 4 月
  55. 伊部史朗、正岡崇志、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦 互 抗レトロウイルス療法中の HIV-2CRF01\_AB 感染例に認めた薬剤耐性変異 第 13 回白馬シンポジウム in 札幌-最先端のエイズ研究を徹底討論する-(札幌) 2011 年 5 月
  56. 岩谷靖雅. HIV の逆転写・複製機構と APOBEC3 による抑制機序 第 13 回白馬シンポジウム in 札幌-最先端のエイズ研究を徹底討論する-(札幌) 2011 年 5 月
  57. 杉浦 互. ~難治性疾患の治療にむけて~「HIV/AIDS 治療の現状とこれからの課題」第 3 回富山ライフサイエンスシンポジウム (富山) 2011 年 7 月
  58. 松永智子, 澤崎達也, 小島良績, 森下了, 佐藤裕徳, 大出裕高, 古川亜矢子, 片平正人, 杉浦 互, 梁 明秀. コムギ無細胞タンパク質合成系を用いた Xenotropic murine leukemia virus-related virus (XMRV) プロテアーゼの解析 日本ヒトプロテオーム機構第 9 回大会(新潟) 2011 年 7 月
  59. 横幕能行、鈴木奈緒子、杉浦 互. 医療現場における HIV 暴露事故への対策と課題 第 65 回国立病院総合医学会 (岡山) 2011 年 10 月
  60. 杉浦互. インテグラーゼ阻害剤の臨床における耐性発現の実際. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
  61. 杉浦互. HIV 薬剤耐性検査と耐性 HIV の現状. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
  62. 北村紳悟, 中島雅晶, 大出裕高, 前島雅美, 伊部史朗, 横幕能行, 渡邊信久, 鈴木淳巨, 杉浦 互, 岩谷靖雅 HIV-1 Vif 感受性に関する APOBEC3C/F のアミノ酸残基の同定. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
  63. 伊部史朗, 近藤真規子, 今村淳治, 岩谷靖雅, 横幕能行, 杉浦 互 ウエスタンブロット法により HIV-1/HIV-2 重複感染が疑われた症例の精査解析. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
  64. 岩谷靖雅, 北村慎吾, 前島雅美, 伊部史朗, 横幕能行, 杉浦互 HIV-1 NC は逆転写開始反応を促進する 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
  65. 田中勇悦, 児玉晃, 西澤雅子, 杉浦互, 田中礼子 CXCR4 架橋による CXCR4 および CCR5 親和性 HIV-1 の感染制御. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
  66. 椎野禎一郎, 服部純子, 湯永博之, 吉田繁, 伊藤俊広, 上田敦久, 近藤真規子, 貞升健志, 藤井毅, 横幕能行, 上田幹夫, 田邊嘉也, 渡邊大, 森治代, 藤井輝久, 南 留美, 健山正男, 杉浦互, 日本薬剤耐性 HIV 調査研究グループ 国内感染



- 集団の大規模塩基配列解析 2: Subtype B の動向と微小系統群の同定. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
67. 片野晴隆, 横幕能行, 菅野隆行, 福本瞳, 中山智之, 新ヶ江章友, 杉浦互, 市川誠一, 安岡彰 日本人 MSM におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルス (KSHV/HHV-8) 抗体保有率について. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
68. 渡邊綱正, 横幕能行, 今村淳治, 杉浦互, 田中靖人 HBV 新規感染における HIV 重感染の影響についての検討. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
69. 吉田繁, 伊部史朗, 服部純子, 松田昌和, 橋本修, 岡田清美, 和山行正, 巽正志, 杉浦互 HIV 薬剤耐性検査の外部精度管理. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
70. 西澤雅子, Johnson Jeffrey, Heneine Walid, 杉浦 互 定量PCRを応用した高感度薬剤耐性検査法による抗 HIV 治療患者からの微小集族薬剤耐性変異検出の試み. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京)2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
71. 今村淳治, 横幕能行, 服部純子, 岩谷靖雅, 杉浦互 薬剤耐性変異を認めた新規未治療 HIV/AIDS 症例の治療と予後の検討. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
72. 柴田雅章, 福島直子, 高橋昌明, 野村敏治, 今村淳治, 横幕能行, 杉浦互 リトナビルソフトカプセルから錠剤への切り替えに伴うダルナビル血中濃度の変化に関する検討. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
73. 大久保奈美, 高橋昌明, 木下枝里, 柴田雅章, 福島直子, 野村敏治, 泉田真生, 今村淳治, 横幕能行, 杉浦互抗結核薬リファンピシンが中止となった患者のラルテグラビル (RAL) の血中濃度推移をみた一症例. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
74. 横幕能行, 鬼頭優美子, 今村淳治, 大出裕高, 服部純子, 伊部史朗, 岩谷靖雅, 杉浦互 HIV プロテアーゼ表現型検査法である VLP ELISA 法の実臨床への応用第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
75. 福島直子, 柴田雅章, 木下枝里, 大久保奈美, 高橋昌明, 野村敏治, 横幕能行, 杉浦互 薬剤師のための HIV 研修会開催に関するアンケート調査について. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
76. 桑原健, 矢倉裕輝, 吉野宗宏, 上平朝子, 白坂琢磨, 杉浦互 エトラビル、ダルナビル、ラルテグラビルの血中トラフ値と海外データーとの比較. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
77. 丸山笑里佳, 横幕能行, 松岡亜由子, 服部純子, 杉浦互 服薬アドヒアランスの低さに関連する要因の検討第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
78. 松下修三、杉浦互「マラビロク、どう使う？」第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会(東京) 2011 年 11 月 30 日~12 月 2 日
79. Matsuoka K, Masaoka T, Tanabe F, Morishita R, Sawasaki T, Iwatani Y, Sugiura W. Development of in vitro enzymatic method for assessing susceptibility to HIV-1 reverse

transcriptase inhibitors using a wheat-germ cell-free translation system. 第 34 回日本分子生物学会年会 (横浜) 2011 年 12 月 13 日～16 日

80. 北村紳悟, 中島雅晶, 大出裕高, 前島雅美, 伊部史朗, 横幕能行, 渡邊信久, 鈴木淳巨, 杉浦互, 岩谷靖雅. Structure-Guided Mutagenesis を用いた APOBEC3C/F の HIV-1 Vif 感受性に関するアミノ酸残基の同定. 第34回日本分子生物学会年会 (横浜) 2011 年 12 月 13 日～16 日

## Ⅱ. 分担研究報告

## 1. HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H23 年)

研究分担者	今井光信	(田園調布学園大学 神奈川県衛生研究所)
研究協力者	近藤真規子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
	佐野貴子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
	大野理恵	(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)
	中瀬克己	(岡山市保健所)
	須藤弘二	(慶應義塾大学 医学部微生物学・免疫学教室)
	加藤真吾	(慶應義塾大学 医学部微生物部・免疫学教室)

### 研究概要

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、また、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象とした HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

今回の全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 560 か所（保健所及びその支所等）の施設中、461 施設（82%）から回答を得ることができた。

アンケート結果では、平成 23 年の 1 年間に、回答の得られた 461 施設中 460 施設で、84,404 件の HIV 検査が実施され、220 件（0.26%）が陽性であった。陽性 220 件中 206 件（94%）が保健所等に再来所して陽性の結果を受け取っており、また、その中の 146 件（66%）については、その後医療機関に受診していることが保健所等において確認されていることが分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 23 年に陽性と分かった 220 件中の 166 件（76%）については自施設からの報告が行われていることが分かった。

即日検査の実施状況に関しては、平成 23 年に即日検査を実施した保健所は 310 施設（67%）と昨年よりやや増加し、HIV 検査相談における即日検査が着実に定着し、普及しつつあることがわかった。また夜間・土日検査に関しても、夜間検査が 162 施設（35%）で、土日検査が 67 施設（15%）と、昨年同様やや増加していた。一部地域においては、東北大地震の影響もあり検査相談事業の一時中止を余儀なくされた施設もあったが、全国的にみると検査相談の実施形態には改善傾向がみられることが分かった。

保健所以外の特設の検査相談施設を対象としたアンケート調査では、対象とした 19 施設中 18 施設から回答が得られ、平成 23 年 1 年間の検査件数は 26,207 件で陽性件数は 167（0.6%）であった。この中で陽性の結果を本人に伝えられたのは 160 件（96%）、その後医療機関に受診したことを確認できた件数が 137（82%）であった。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知の問題に関して、平成 23 年には調査開始以来最も多い 3 件の報告があった。一例は HIV 検査において誤って HBs 抗原の検査キットを使用したもので、他の 2 例は B 型肝炎検査と梅毒検査の結果報告における誤通知であった。保健所において HIV 検査とともに他の性感染症検査を行う保健所も多く、受検者にとって利便性が高まる一方、異なる種類の検査が並行して進行するため、検査相談の業務がより複雑化し、誤通知のリスクも高まっているものと思われる。誤通知の防止のためには、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められており、研究班としてもマニュアルの改訂等も含め、検査相談体制の充実にさらに努めていく必要がある。

## A. 目的

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

## B. 方法

全国の保健所およびその支所等 560 の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等 19 の特設 HIV 検査相談施設を対象に、平成 24 年 1 月 5 日に HIV 検査相談に関するアンケート調査票（資料 1 参照）を郵送し、平成 24 年 1 月 20 日を締め切り日として、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

## C. 結果

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の 580 施設中 461 施設からアンケート結果が返送され、アンケートの回収率は 82%であった。また、特設検査相談機関については、対象とした 19 施設中 18 施設（95%）からアンケート結果を回収できた。

### ① 保健所における HIV 検査相談の実施率

回答のあった 461 保健所等施設の中で HIV 検査相談を実施している施設は 460 箇所（99.8%）であった。

### ② HIV 検査総数と陽性率

上記保健所等 460 施設で平成 23 年に行った HIV 検査相談の検査総数は 84,404 件で、陽性例は 220 例（0.26%）であった。

### ③ HIV 検査陽性者の結果通知と医療機関受診の把握率（図 2, 3）

HIV 検査陽性の 220 例において、受検者が陽性の確認検査を受け取りに再来所したのは 206 例（94%）であった。この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は 146 例であり、陽性結果を伝えられた 206 例中の 71%、全陽性例 206 中の 66%であった。

### ④ HIV の確認検査陽性例の報告

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成 23 年に陽性と分かった 220 件中の 166 件（76%）については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

### ⑤ HIV 検査以外の性感染症検査について

HIV 検査以外の性感染症検査に関しては 385 施設（84%）の保健所等で実施しており、その内訳は、梅毒検査 294（76%）施設、クラミジア抗体 226（59%）施設、クラミジア抗原 68（18%）施設、淋菌 42（11%）施設、B 型肝炎 278（72%）施設、C 型肝炎 151（39%）施設であった。今回の調査で、B 型肝炎の検査を実施している施設数が昨年の 126 施設（33%）から 278 施設（72%）と急激に増加していることが分かった。

### ⑥ 即日検査の実施状況

即日検査のみ実施している施設が 185 施設（40%）、即日検査と通常検査を行っている施設が 125 施設（27%）、通常検査のみ行っている施設は 150 施設（33%）であり、67%の施設が即日検査を導入していることが分かった。

### ⑦ 土曜・日曜・夜間検査の実施状況

HIV 検査相談を実施している全国 460 保健所で、平日・昼間にのみ検査を行っている保健所が 231 施設（50%）、平日夜間検査を行っている保健所が 162 施設（35%）、土曜・日曜検査を行っている保健所が 67 施設（15%）であり、その比率は昨年・一昨年とほぼ同じであった。

### ⑧ 検査法と実施時間の組み合わせ

検査法と実施時間との組み合わせでは、通常平日の検査は 110 施設（24%）、通常夜間が 35 施設（8%）、通常土日が 5 施設（1%）であり、即日平日が 85 施設（18%）、即日夜間が 69 施設（15%）、即日土日が 31 施設（7%）であり、両検査平日が 36 施設（8%）、両検査夜間が 58 施設（13%）、両検査土日が 31 施設（7%）であった。通常平日の組み合わせの占

める比率は 24%と年々減少しており、多くの検査施設がより利便性の高い検査相談の提供に努めていることが分かった。

#### ⑨ 年間検査件数別の保健所分布

年間検査件数別の保健所分布に関しては、年間検査件数が 50 件未満の保健所数は 166 箇所(36%)、50 件以上 100 件未満は 79 箇所(17%)、100 件以上 200 件未満は 84 箇所(18%)、200 件以上 500 件未満は 94 箇所(20%)、500 件以上 1000 件未満は 25 箇所(5.4%)、1000 件以上は 12 箇所(2.6%)であった。

#### ⑩ 年間検査件数別の検査数

年間検査件数が 200 件以上の保健所数は 28%であったが、そこで実施された検査件数は、検査総数の 75%を占めているおり、また、年間 500 件以上の施設は 8%であるが、それら施設における検査数は全検査数の 41%を占めていた。

#### ⑪ 年間検査件数別の陽性率

保健所等の HIV 検査相談における陽性率は、平均では 0.26%であり、年間検査数別に調べると、検査数 50 未満では 6 例で 0.16%、50-99 件の保健所では 13 例で 0.24%、100-199 件の施設では 33 例 0.27%、200-499 件の施設では 51 件 0.18%、500-999 件の施設では 64 例 0.37%、1000 件以上の施設では 53 例(0.30%)と検査数の多い施設では陽性率もやや高い傾向がみられた。

#### ⑫ 予約制の有無

予約制の有無に関しては通常検査の実施施設の 60%、即日検査の実施施設の 80%が予約制を実施しており、またその場合通常検査では 41%、即日検査では 80%が上限をもうけていることが分かった。

#### ⑬ HIV 検査の実施施設

通常検査の場合、自保健所での実施が 21%、他の保健所への委託が 9%、衛生研究所への委託が 39%、外部委託による検査は 31%であった。また、確認検査に関しては衛生研究所への依頼が 63%で、外部委託は 28%であった。

即日検査の場合、迅速検査の実施者は、自施設の検査職員が 69%、医師、保健師が 15%であった。

#### ⑭ 結果説明について

結果説明の担当者に関しては、陰性時には医師が 47%、保健師が 64%であり、確認検査陽性時には 97%とほぼ全ての施設で医師が担当し、69%で保健師も加わっていた。また、感染予防のための行動変容を働きかける相談に関しては、90%の施設において行われており、77%では全員に、21%の施設では、一部を対象に行われていた。陽性者への説明に関しては、全施設の 70%で説明資料を用意してあるとの回答であった。陽性者への説明のマニュアルについては 53%の施設であり、31%でなしと回答があった。

#### ⑮ 特設検査相談施設における検査相談

18 箇所の特設検査相談機関での検査総数は 26,207 件で、陽性例は 167 例(0.6%)であった。これら陽性例において、受検者が陽性の確認結果を受け取りに再来所したのは 160 例(96%)であった。

また、この中で医療機関を受診したことが確認されている事例は 137 例であり、陽性結果を伝えられた 160 例中の 86%、全陽性例中の 82%であった。

#### ⑯ HIV 検査結果の誤通知について

平成 23 年には全国で 3 件の誤通知事例があった。一例では、HIV 検査において誤って HBs 抗原検査キットを使用してしまい、受検者の一人が HBs 抗原迅速検査キットで陽性となったため、誤って HIV 検査陽性と受検者に伝えてしまった。その後、誤りに気づき広報により呼びかけた結果、誤通知を受けた受検者に連絡ができ正しい結果を伝えることができた。この誤通知例では、検査キットを取り違えて使用するという基本的ミスであったが、その後検査キットの確認手順等も定め再発防止に努めている。他の 2 例は、HIV 検査と並行して行っている B 型肝炎検査と梅毒検査に

おける誤通知であった。現在、84%とそのほとんどの保健所が HIV とともに他の性感染症検査も行っており、受検者にとっての利便性が高くなっている一方、検査相談業務に携わる者にとっては、検査相談の業務がより複雑化するため、誤通知のリスクも高まっている。そのため、その防止のためには、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められている。

#### D. まとめと考察

前回のアンケート調査から、新型インフルエンザの流行による HIV 検査相談事業への直接的影響はほとんどなかったものの、国民全体の関心が新型インフルエンザに向かうに伴い、HIV への関心が下がったことによる影響で、保健所等における HIV 検査相談数が減少傾向にあることが明らかになったが、今回のアンケート調査では、昨年3月におきた東北大震災の影響も重なり、検査数の減少傾向はつづいており、保健所等の検査相談施設での検査数は横ばいかやや減少していることが分かった。

今回行った全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所の協力により、対象とした560の保健所等施設の82%、461施設から回答を得ることができた。

アンケート結果では、HIV 検査を実施している全国の460保健所等施設で、平成23年には84,404件のHIV検査が実施され、そのうち220件(0.26%)が陽性であった。この220件の陽性例のうち、206件(94%)が再来所して陽性の結果を受け取っており、その146件(71%)については、その後医療機関に受診していることが保健所において確認されていることが分かった。医療機関に繋がったことの確認ができた率は、この数年間ほぼ一定である。

また、HIV 検査相談の利便性の向上に関しては、即日検査を実施している保健所の比率が67%とやや上昇し、即日検査の導入も着実に

に定着しつつあるものと思われる。また、通常検査のみを実施している保健所(33%)においても、夜間、土日検査等受検者に利便性の高い時間帯の検査を実施している保健所が増えており、通常検査で平日昼間のみの保健所は全体の14%と少なかった。

また、本年は残念ながら HIV 検査結果の誤通知の発生が3件報告されている。誤通知の3例はいずれも HIV 検査以外の性感染症検査に関連したものであった。一つの例では HIV 検査と並行して行っている B 型肝炎検査の検査キットを誤って HIV 検査に使用したものであり、他の2例は HBs 抗体検査と梅毒検査に関する誤通知であった。

現在、84%とそのほとんどの保健所が HIV とともに他の性感染症検査も行っており、受検者にとっての利便性が高くなっている。

その一方、検査相談業務に携わる者にとっては検査相談の業務がより複雑化するため、誤通知のリスクも高まっている。そのため、その防止のためには、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められている。

誤通知の発生は、当事者への影響とともに、HIV 検査相談事業全体への信頼に大きな影響を及ぼすため、その再発防止に向けての取り組みは、HIV 検査相談の利便性を高める取り組みと共に、極めて重要な課題である。本研究班においても研究班としてもマニュアルの改訂等も含め、検査相談体制の充実にさらに努めていく必要がある。

#### 謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所等関係者の皆様方に深く感謝致します。

#### E. 研究発表

##### 原著論文

1. 加藤真吾, 今井光信. HIV 検査の新たな展開. 日本エイズ学会誌 13(3):132-136. 2011.

図1

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果

(2012年2月15日)

HIV検査体制  
研究班

保健所アンケート 回答数 (2012. 2/15現在) 461/ 560箇所 (82%)

2011年にHIV検査を実施した保健所 460/ 461箇所 (99.8%)

2011年に陽性結果のあった保健所 115/ 460箇所 (25%)

陽性件数 220/ 84, 404 (陽性率 0.26%)

陽性結果を伝えられた件数→ 206/ 220 (94%)

受診したことを把握できた件数→ 146/ 220 (66%)

発生同行調査の報告を行った感染者数件数→ 166/ 220 (76%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 82,702/ 84,184 (98%))

図2

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果

(2012年2月13日)

HIV検査体制  
研究班

特設検査機関アンケート 回答数 (2012.2.13現在) 18/ 19箇所 (94%)

2011年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 16/ 18箇所

陽性件数 167 / 26207 (陽性率 0.6%)

陽性結果を伝えられた件数→ 160/ 167 (96%)

受診したことを把握できた件数→ 137/ 167 (82%)

(陰性結果を伝えられた件数→ 25,646/ 26,040 (98%))



図3

(2011年)

### 保健所HIV検査 — 即日検査と通常検査 —

(460件中)

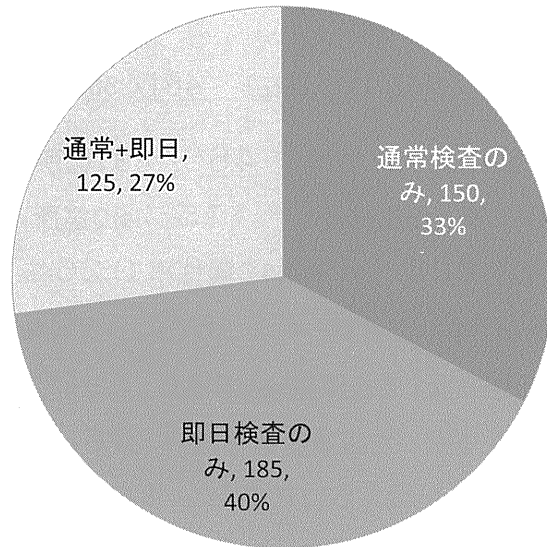


図4

(2011年)

### 保健所HIV検査 — 平日、夜間、土曜・日曜 —

(460件中)

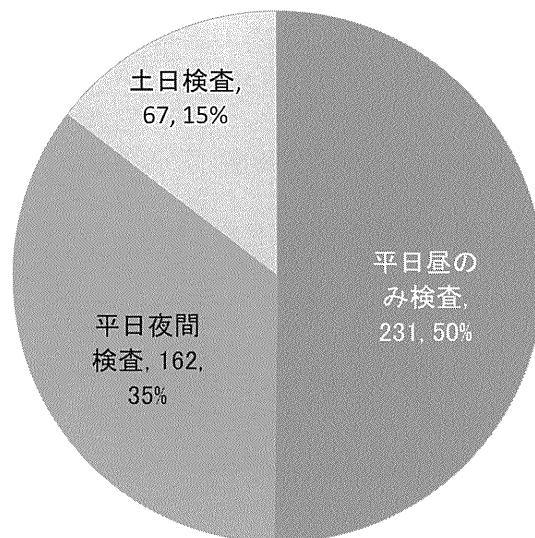


図5

(2011年)

### 各種HIV検査の実施状況 (保健所数の割合)

(460件中)

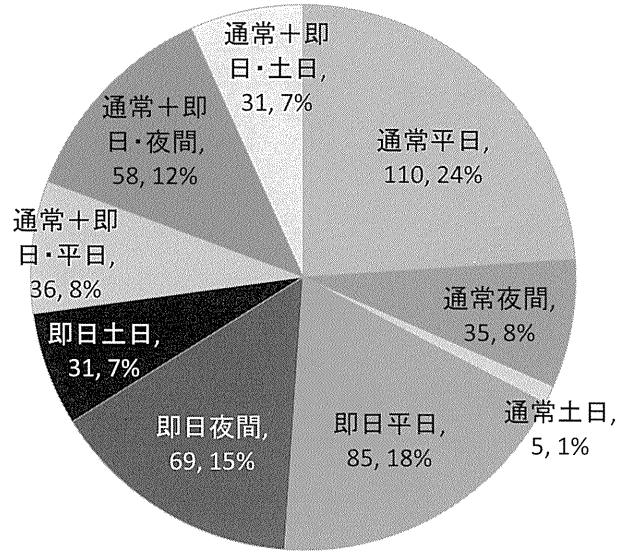


図6

(2011年)

### 各種HIV検査の受検者数 (%)

(n=84,404)

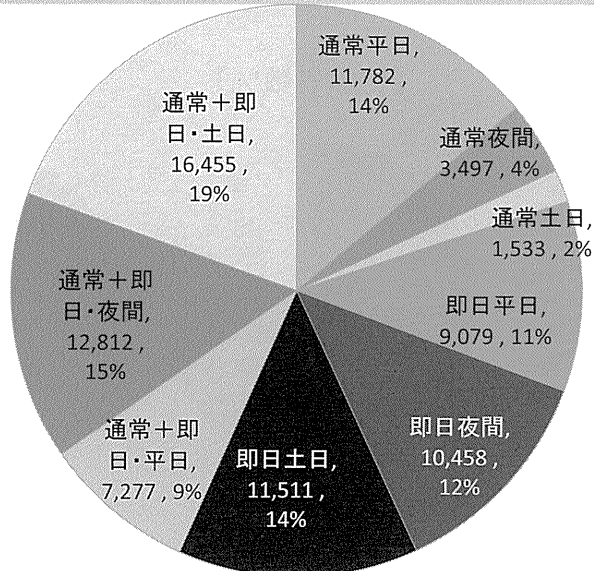


図7

(2011年)

### 各種HIV検査の陽性者数(%)

(n=220)

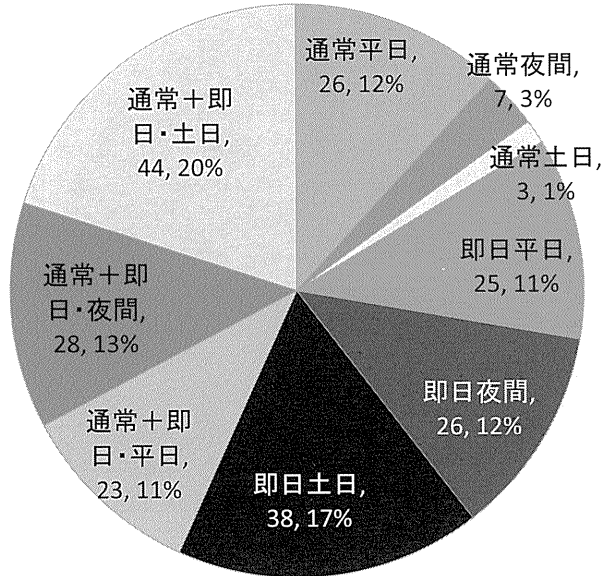


図8

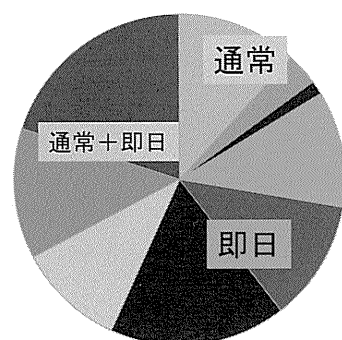
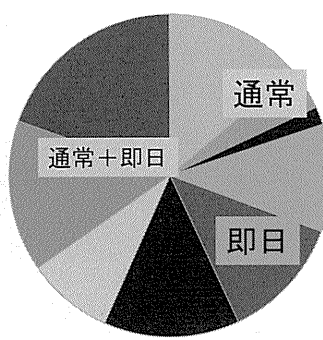
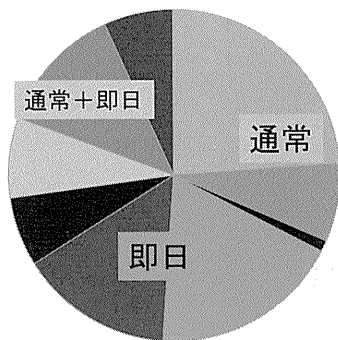
(2011年)

### 各種HIV検査の実施状況

【保健所数の割合】

【受験者数%】

【陽性者数%】



- 通常平日
- 即日平日
- 通常+即日・平日

- 通常夜間
- 即日夜間
- 通常+即日・夜間

- 通常土日
- 即日土日
- 通常+即日・土日

図9

(2011年)

一施設当りの検査人数

( )内は陽性者数

【通常検査】

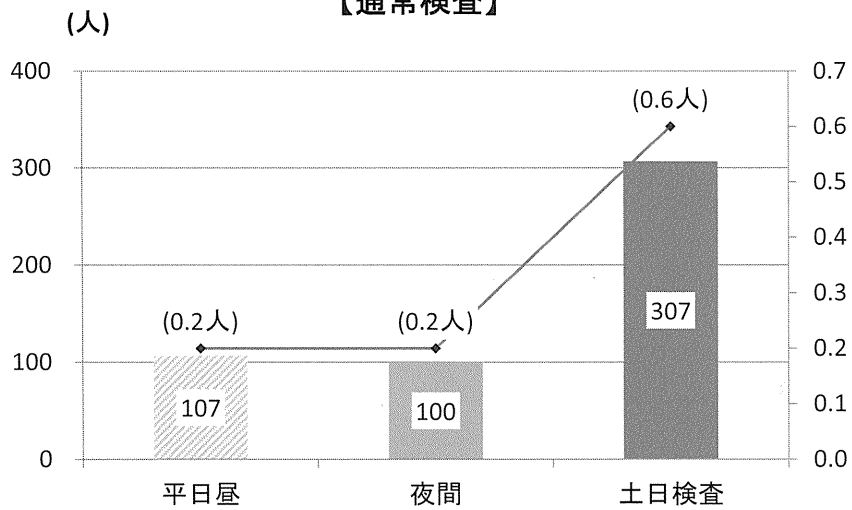


図10

(2011年)

一施設当りの検査人数

( )内は陽性者数

【即日検査】

